

庚寅神無月壹日
無涯塾師範 廣瀬敏男

心是道 (しんこれどう)

私が居合に使っている刀、「備前長船則光」を道場で抜付けすると自分がみえてくる。業（技）の未熟や、修行の足りなさは勿論のこと、自分の人間性までが見えて来るから不思議なものである。

物事に対峙する己の姿勢、今まで経て来た人生の軌跡が瞬時に見えてしまう。長年にわたり懇意にしてもらっている高知の池清幸八段は、「居合は自分の人生を抜け」が口癖である。まさに、その通りであると思うがなかなか難しいものである。

抜き付けに、切り下しに、或は血揮い、残心に人生の縮図がある。

^{わざまえ}業前（技）は稽古の仕方や量によって向上し、上手になるが、基本はやはり人間性ではなかろうかと考える。

昭和五十八年、金澤の中部日本大会で、故額田長範士先生が私に申された言葉は忘れない。「君の居合は素直な居合だ。その調子で心の正しい居合を抜きなさい。こころは剣に表れます。心の正しくない剣は邪剣です」

素直さを失いかけて右往左往、先生のお言葉を実践できず申し訳なく反省の限りである。

居合を習って沢山の人達と出会い、向い合ってきた。そして、いろんな人生を、いろんな人間をみてきた。その人らからは、一流の剣士である前に普通の一般社会人であることがいかに大切であるかを悟らせてもらった。

結論は、居合は自分に向き合う武道。初心に戻り素直な気持で居合やることである。

了

面白きこともなき世をおもしろく

住みなすものは 心なりけり

高杉晋作